



# 学校だより

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/byobugaura/>

6 月 号  
平成30年 5月30日  
横浜市立屏風浦小学校  
校長 海老原 眞

## 豊かな体験活動を糧に

5月の下旬から、少し蒸し暑い日が続き、これからの梅雨の季節の到来を予感させる日々が続いています。梅雨の晴れ間の夏空は、とても気持ちが良い、できればこのじめじめした雨の季節が早く過ぎてくれないかと考えてしまいますが、米や野菜などを生産されている方々にとっての梅雨の適度な雨は、その後の大きな収穫につながる大切な恵みでもあります。

学校でも、低学年の子どもたちが花や野菜の苗を育て始めました。朝の登校後に、低学年の子どもたちが、『大きくなってね。』と声をかけながら水やりをしたり、小さな花や実をつけ始めた生長の様子を優しく見守っていたりする姿は、とても微笑ましく感じます。梅雨をおかえるこれからの季節、さらに大きな実りを楽しみに過ごしていけるとよいと思います。

さて、5月11日・12日の一泊二日で、6年生は日光修学旅行に行ってきました。一日目は、日本を代表する滝の数々を見学した後ハイキングを楽しみ、二日目は、世界遺産にもなっている日光東照宮をはじめとした二社一寺を見学するというコースで、自然や歴史と存分にふれあえる旅行となりました。特に、一日目の戦場ヶ原ハイキングの出発前、暦のうえではもう初夏になるような時期にも関わらず、空からちらちらと小雪が舞う様子に、日光の自然の雄大さとともにその厳しさを実感したことがとても印象に残りました。また18日・19日には、5年生が愛川宿泊体験学習に行ってきました。天候にも恵まれ、高取山への登山や友達と協力して取り組んだカレー作り、森の中でみんなで大いに盛り上がったキャンプファイヤーなど、新緑の自然に囲まれながら活動を存分に楽しんできたようです。

このように自然に親しみながらの貴重な体験や経験は、自分が小さかった時を思い起こしてみても不思議と忘れることはありません。4年生の体験学習では、真鶴の海岸でプランクトンの採集をし観察したことや6年生のハヶ岳への体験学習では、草原にみんなで寝転がって、満点の星空を眺めたこと、また、普段の生活の中では、木の枝の先に糸を付け餌を巻き付け、近所の川でザリガニをたくさん捕ったこと、桜並木の下を、帽子を逆さにして桜の花びらをいくつ取るができるか友達と競争して走ったこと、雪がたくさん降った翌日に友達と協力して

かまくら作りをして遊んだことなど……。豊かで印象的で楽しい体験や経験は、年齢を重ねるごとに一段とはっきりしてくるようになると思います。そして、その中で学んだことが数多くあったように今さらながら感じています。

屏風浦小学校では、様々な日常の学習活動や遠足、社会科見学、体験学習、修学旅行などで豊かな体験や経験ができる機会を大切にしています。豊かで多様な体験は、子どもたちの心を耕し、豊かな感性を育てます。次第に自然が失われ、インターネットが発達し、仮想現実の世界がより身近になってきている現代社会だからこそ、学校教育においては、実感のともなった豊かな体験や経験を積み重ねていくことを教育課程にしっかりと位置づけ、子どもたちを育てていきたいと考えています。